

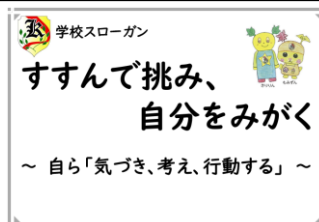


霧が丘

令和 8 年 9 月 25 日
横浜市立義務教育学校
霧が丘学園
校長 根岸 淳

気づき、考え、行動する

准校長 井上 晋吾



霧が丘学園では、今年度から学校スローガンを「すすんで挑み、自分をみがく～自ら「気づき、考え、行動する」～」としています。「気づき、考え、行動する」とは、決して特別なことではありません。例えば、廊下にごみが落ちていることに気づき、「みんなが気持ちよく過ごせるように拾おう」と行動すること。困っている友達を見かけたときに、「どうしたの?」「大丈夫?」と声をかけること。そんな日常の小さな行動の積み重ねが、よりよい学校づくりにつながります。

横浜市では「横浜子ども会議」という取組があります。平成 25 年度から実施されており、いじめを「しない」「させない」「見逃さない」安心できる社会を目指して、全市立学校の児童生徒がいじめ問題について主体的に考え、話し合う取組です。霧が丘学園でも、小学部・中学部それぞれの学級で「いじめをしないために、みんなでできること」について考え、話し合いを進めてきました。7 月 10 日には、児童生徒の代表と PTA、地域の皆様が集まり、それぞれの立場から意見を交わしました。さらに 8 月 28 日に中山小学校で、行われた緑区横浜子ども会議に代表児童生徒（4 名）が参加し、他校の児童生徒とともに考えを深めました。話し合いの内容については、代表児童生徒が小学部・中学部それぞれで全校に伝えていきます。

いじめの背景には、自分の思いをうまく伝えられず、乱暴な行動をとってしまったり、自分に自信がもてず、その不安やいら立ちを相手にぶつけてしまったり、何気ない一言を必要以上に強く受け止めてしまったりすることなどが考えられます。一方で、何気なく発した言葉や行動であっても、受け取る相手にとっては深く心に残ることがあります。「そんなつもりではなかった」という気持ちがあったとしても、相手が傷つき、つらい思いをしていれば、その痛みは確かに存在します。また、嫌な思いをしたときに一人で抱え込まず、家族や先生、友達など信頼できる人に相談することも大切です。困っていることを言葉にすることで、解決への第一歩を踏み出すことができます。子どもたちは皆、成長の途中にあり、悩んだり失敗したりしながら日々を過ごしています。だからこそ大切なのは、気づくこと、そして相手の気持ちを想像することです。「何か困っていることがあるのかな」「自分には何ができるかな」と立ち止まって考えることが、友達を大切にすることの第一歩になると思います。また、自分自身を大切にすることも忘れてはいけません。失敗しても、「大丈夫、もう一度やってみよう」と思えること、小さな「できた」を積み重ねることが、自信につながります。

これから小学部では「運動会」、中学部では「あすなろ」に向けた取組が始まります。うまくいかないことや思うようにならないこともあると思います。しかし、失敗を恐れるのではなく、その経験を通して、自ら「気づき、考え、行動する」力を身に付けてほしいと思います。失敗も成功も一つ一つが、「すすんで挑み、自分をみがく」ことにつながっていきます。一人ひとりが自分を大切に、友達を大切にしながら、「今、自分にできることは何だろう」と考えて行動できる子どもたちを育てていきたいと思います。そして、「気づき、考え、行動する」を実践しながら、誰もが安心して過ごせる温かな霧が丘学園を、みんなで創っていききたいと思います。

各学年の活動や、学校からのお知らせを掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

<霧が丘学園ホームページ>

URL <https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es-jhs/kirigaoka/>



QRコード